



2021年7月2日
飯野海運株式会社

当社は2021年7月1日に創業122年を迎えました。
代表取締役社長 當舎裕己が6月30日に飯野海運グループ全社員に向けて下記の通り挨拶を行いました。

記

2021年 創業記念日 社長挨拶

2021年7月1日、122回目の創業記念日を迎えるにあたり、役職員の皆様にご挨拶申し上げます。

世界的な蔓延が続いている新型コロナウイルスの感染は、未だ収束しておらず依然として先行き不透明な状況が続いています。業務上においても様々な制約を受けてご苦労が続いていることかと思えます。そのような状況下においても、皆さんの日々のご尽力のお陰で、海運業においては安全・安定的な海上輸送を止めずに社会インフラとしての役割を継続出来ており、不動産業においても感染症拡大防止を徹底し、安全なオフィス空間の提供を継続出来ていると思えます。この場を借りて改めて皆さんのご尽力にお礼申し上げます。どうもありがとうございます。

さて、最近ESGやSDGsといった言葉を目にしたり、耳にしたりする機会が益々増えてきているかと思えます。飯野海運グループの経営においてもESGやSDGsを意識した経営がこれまで以上に求められており、その対応を加速させていくつもりでいます。本日はそのESGに沿って話をしたいと思います。

まず、E Environment、環境ですが、温室効果ガスの削減、大気・海洋汚染の防止、生物多様性の保全等、様々なことが求められています。これら環境対応により今後の世界も大きく変わっていくことかと思えます。エネルギー輸送を得意としている我々の海運業では特にその影響が大きく、将来を見据えた飯野海運グループとしての海運業の在り方が求められており、私たちは今、その大きな分岐点に立っていると思えます。温室効果ガス削減に資する次世代のエネルギーと一口に言っても、太陽光・風力・LNG・水素等色々と考えられると思えますが、その中でも当社としては特にアンモニアに注力していきたいと考えています。肥料原料としてのみでなく、燃料としてのアンモニアが注目されています。アンモニアだからガス船部、環境だから環境タスクフォースや事業戦略部の担当で自分には関係のないことだ、という姿勢ではなく、他の営業部門、管理部門、関係会社、海外店も含む全ての役職員が自分の担当部署でも何かできることはないかとアンテナを張り、ALL IINOで取り組んでいってほしいと思います。

次にS Social、社会ですが、こちらについてはダイバーシティ、多様性への対応を進めていきたいと思えます。性別に関係なく、ジェネラリストとスペシャリスト、日本人と外国人等様々

な属性を持った方々に飯野グループの役職員として働いてもらっています。様々な立場の人達が自分とは違う立場の人達を互いに尊重し合い、多様な視点から出てくる様々な発想や考え方を認め合い、そして相互に刺激し化学反応を起こし、新しいものを生み出す。そのような職場環境を整えられるよう尽力していきたいと考えています。具体的には産休・育休制度の充実やそれを支える周りの人達の負担軽減、評価制度の充実、中途採用や外国人採用の推進等を考えています。

最後に G Governance です。こちらは職員の皆さんにというより我々役員へ自戒の念を込めてお話ししたいと思います。最近では不正会計問題やシステムトラブルが大きなニュースとなり、会社のあり方、姿勢が問われ、コーポレートガバナンスが問題視されるケースもありました。また、2022年4月には東証の市場区分が見直され、我々企業に求められるガバナンスの水準もより一層高まっています。他社のケースを他山の石とし、新しい時代の水準もクリアすべく、我々役員もここで改めて襟を正していきたいと思っています。

さて、今回は中期経営計画の重点強化策の一つとして謳っている「グローバル事業の更なる推進」についても述べたいと思います。中期経営計画立ち上げ直後の2020年はコロナの影響が想定以上に長期化し、思うような対策が打てませんでした。しかしながら今年度はこれから話す3つの対応策を中心にグローバル展開を一気に推進したいと考えています。

まず、1つ目は事業戦略部の設立です。新規事業を発掘する事業開発推進部と海外店の戦略・活動を取り纏める海外戦略担当を統合し事業戦略部としました。事業戦略部には先に述べた環境への対応を中心とした新規事業への挑戦と当社事業の更なるグローバル展開の推進を目的とし、海外店の戦略を取り纏め、それに沿った海外店の活動をグループ内に浸透させ、更なるシナジーを図ってもらいたいと思います。

2つ目はロンドン、IINO UK の拡張です。環境問題に関心の高い欧州の拠点を拡張することにより、グローバルスタンダードにおける最先端の環境対応への情報収集、環境に関心の高い欧州顧客への展開を一層加速していきたいと思っています。

3つ目はドバイの拡張です。ここではケミカル船の収益改善を主たる目的としています。一度我々の原点・ホームグラウンドである中東に立ち返り、利益を生む体質、更にはその盤石化を推進していきたいと考えています。更にこれからは中東発の環境対応という視点も重要になってくると考えます。

今回は ESG や中期経営計画の「グローバル事業の更なる推進」といった点に着目して、私の考えていることや飯野海運グループとして今後力を入れていきたいポイントについてお話をしました。

そして最後に私から皆さんへのメッセージをお伝えしたいと思います。それは「変革をためらうな」です。

当社はここまで数多くの難局を乗り越えて来ました。海運集約の際には当時の花形部門であった定期船部門を手放し、採算の悪い不定期船部門を抱えて出直しました。その後、内・外航のガスやケミカルなど新規分野に挑戦し続け、ノウハウを積み重ね、不動産業との両輪経営により海運の市況変動の大波も乗り切ってきました。苦境を打破できなければ滅んでしまうという危機感、追い詰められて発揮する底力、一致団結力で今日があります。

中期経営計画の IINO VISION for 2030 でも「時代の要請に応え自由な発想で進化し続ける」ことを目標に定めています。この目標は今までの経験則を越えて一歩先へ踏み込んでいることを皆さんにご認識頂きたいと思っています。

急激に変化する現在の世界では受け身で構えていてはダメです。先を読み、追い込まれる前に先手を打つ必要があります。能動的に、自発的に自分を変えていく強い意識とその意識を行動に移す実行力。今後の飯野海運グループが発展していく鍵はこれだと思います。国籍、性別、職種、勤務地、その他一切切を超えた飯野海運グループ全ての役職員の皆さんで一丸となって、変化を恐れずに挑戦していきましょう。

もう一度言います。「変革をためらうな！」です。

それでは、結びにあたりまして、

グループ全船の安全運航、所有ビルの安全無事故

グループ各社の一層の繁栄

グループ役職員の皆様ならびにそのご家族のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

以 上